科目名	健康回復を支える看護Ⅱ（周手術期）	対象学年・時期	2年・ 前期
講師	非常勤講師および専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	ここでは、治療を目的として医療施設に入院し、手術療法を受ける人々に対する看護を学習する。 周手術期の看護については、「治療論Ⅱ」で学んだ手術療法および麻酔法の概要をもとに、周手術期にある対象の特徴を理解し、回復過程を促進する援助、形態や機能の変化に対する受容と適応を促すための援助、また不安や葛藤の軽減と意思決定の援助と理論についてわかるようにする。 看護者は、手術の安全な進行のため手術前・中・後において患者の心身の状態を、的確に把握・調整し、チーム医療が効率的に行われるようコーディネーターの役割を担っている。 このような特殊な環境下で行われる看護の実際について、手術室看護認定看護師の講義を通して理解を深める。 また、術後は多職種専門医療職が協働し、回復過程を支えていることが理解できるようにする。		
講義形態	講義、演習		
学習目標	1. 術前・中・後を通しての体の変化を理解することができる 2. 術後の体の変化をアセスメントし、術前・中・後の看護がわかる 3. 発達段階や対象に応じた周手術期看護がわかる		

学習内容 (授業計画)	1. 周手術期の看護,手術侵襲と生体反応	事前学習：①ムーアの分類について教科書を読む。 ②ムーアの分類第Ⅰ相で起こる神経・内分泌反応 ③免疫・炎症反応 ④凝固・線溶系反応
	2. 手術侵襲と生体反応について解説 術後合併症のグループワーク	事前学習：ムーアの分類第Ⅰ相で起こる生体反応を関連図に表す。 事後学習：術後合併症を一つ選択し、病態関連図に表す。（グループで）
	3. 術後合併症の病態生理…発表	事後学習：術後合併症の危険性がある対象への看護計画
	4. 術前看護	
	5. 術中看護【認定Ns】	
	6. 術後看護① DVD「周手術期看護」を視聴する 看護計画を立案する （グループワーク）	
	7. 術後看護② シミュレーターを用いた術後援助の演習（看護計画の実施）	事後学習：演習をもとに、看護計画の追加・修正
	8. 術後看護③ 術後患者に対する援助について グループで発表	
	9. 特殊な環境下における術式と術後看護【認定Ns】	
	10. 【老年】手術を受ける高齢者の特徴と看護 ・術後合併症ハイリスクの対象への看護 ・日帰り手術後の管理	事前学習：①高齢者に生じやすい術後合併症 ②術後せん妄 ③白内障手術と看護
	11. 【母性】帝王切開を受ける女性の看護	事前学習：①腰椎麻酔、硬膜外麻酔 ②帝王切開後の術後合併症 ③子宮復古 ④乳汁分泌調節のメカニズム ⑤妊娠・産褥における血液凝固の特徴 （後日、詳しく説明します。）
	12. 【母性】帝王切開後の身体回復と育児、産褥期特有の変化を捉えた看護	
	13. 【小児】手術を受ける子どもと家族の特徴と看護	

	14.　【小児】術前プレパレーション （グループで発表） 術後看護 【まとめ】周手術期の看護と看護師の役割	
	15.　終講試験	
使用テキスト	系統看護学講座－別巻　臨床外科看護総論　（医学書院）	
事前学習・ 事後学習 （学習を促進できる学修）	内容については「8.学習内容」を参照してください。 指定日まで各教員に提出してください。	
評価基準と 評価方法	筆記試験	
備考	解剖生理学の知識を基盤とした身体の恒常性を理解し主体的に学習に臨むこと。	